

令和 5 年 6 月 16 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2021

課題番号：19H01288

研究課題名（和文）省察ツールとしてのポートフォリオの体系化と活用ガイドの開発

研究課題名（英文）Systematizing Portfolio as a Reflection Tool and Developing its Application Guide

研究代表者

神保 尚武（Jimbo, Hisatake）

早稲田大学・商学大学院・名誉教授

研究者番号：60063781

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、省察ツールとしてのポートフォリオによって外国語の教育と学習の枠組みを体系化し、さらに、その活用ガイドを開発することによって、「主体的、対話的で深い学び」の実現に貢献することを目的とした。2021年3月には『小学校英語指導者のポートフォリオ』（J-POSTL Elementary）を完成させた。その『教職課程における活用実践』を冊子として2022年2月に刊行した。その後、同ポートフォリオの普及活動活動を展開した。研究の総まとめを2023年3月に東南アジア地域言語教育センターの国際大会（RELC, Singapore）で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ポートフォリオ学習のすすめをしたいと思います。学習過程における学習者個人の技能・考え・興味・関心・成果などの証拠を補完するためのポートフォリオを使った学習のことで、学習の成果である様々な提出物をファイルに入れて記録しながら、学習のプロセスを重視する学習方式である。従来のpaper testの結果だけを評価せず、学習者の成長を総合的に進めていこうとする理念である。

研究成果の概要（英文）：We have succeeded in compiling portfolios for student teachers of languages. One is Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages (2014) and the other is J-POSTL for Elementary-school Teacher Education (2021). Based upon the principles shown in these publications, we have published a teacher training textbook titled Action-oriented teaching and learning (Sanshyusha, 2017). We have presented a paper Challenges and Prospects of Using Portfolios as a Reflection Tool in Pre-service Teacher Education in March, 2023 at RELC international conference in Singapore.

研究分野：English Education

キーワード：ポートフォリオ 行動指向アプローチ ヨーロッパ言語共通参照枠

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

言語教師や学習者の成長のための方策が乏しかった 2000 年代後半に、具体的にどのようなことが可能かとの探求を始めた。2008 年に『ヨーロッパ言語教育履修生ポートフォリオ』(EPOSTL, the European Portfolio for Student Teachers of Languages)との出会いがあった。

2. 研究の目的

言語教師と学習者にポートフォリオ学習の優れた点を理解させる。言語学習の長期的目標や内的動機づけになりうる観点は生涯学習である。教師の役割は自分の意志で言語の学習を進め、学習の管理ができる自律した学習者を育てることである。

3. 研究の方法

あしかけ 5 年間の調査の結果、EPOSTL のほとんどの自己評価記述文は日本の教育環境で受容可能であると判断した。EPOSTL を翻案化し、邦題を『言語教師のポートフォリオ』(J-POSTL)(2014)として発刊した。続編として『小学校英語指導者のポートフォリオ』(J-POSTL エレメンタリー)(2021)も完成させた。

4. 研究成果

『言語教師のポートフォリオ』と『小学校英語指導者のポートフォリオ』をめぐる多くの研究成果を生んだ。最新のものをいくつかあげる。

[雑誌論文]

- (1) 米田佐紀子、森本 俊「教職実践演習(中・高)における小中高を見通したリフレクションの可能性 深い省察を促すための方法論の開発と実践」『言語教師教育』Vol.10, No.1(2023, 1-20) 査読有
- (2) 高木亜希子、他 4 名「中高生の将来の英語使用者としての自己像の認識 6 年間の経年調査からの考察」『言語教師教育』Vol.10, No.1(2023, 21-41) 査読有
- (3) 大崎さつき「教職履修生の模擬授業に対する省察の深さに関する考察 より効果的な省察ツールの活用を目指して -」『言語教師教育』Vol.10, No.1(2023, 42-61) 査読有
- (4) 浅岡千利世、他 3 名「英語科教職課程履修生の共同体における協働の振り返り」『言語教師教育』Vol.10, No.1(2023, 62-81) 査読有
- (5) 細 喜朗 J-POSTL を活用した異文化理解授業におけるルーブリック評価の考察 プレゼンテーションの評価基準に着目して Vol.10, No.1(2023, 82-94) 査読有

[学会発表]

- (1) 吉住香織「自律的学習者の育成：やる気と思考を促す授業指導の視点と工夫」第 25 回埼玉私学教育研究大会(英語教育分科会)(招待講演)(2022)
- (2) 清田洋一 Two Projects for Fostering Imagination, Communication Skills, and Intercultural Awareness Tokyo JALT Teaching Young Learners SIG (招待講演)(2022)
- (3) 清田洋一 Extensive Reading Project with Oxford Reading Club in Our English Program 全国語学教育学会第 48 回年次国際大会(招待講演)(2022)
- (4) 清田洋一、北野ゆき 小学校英語学習における文化の学びの実践 国立民族学博物館『みんぱっく』を活用して 日本児童英語教育学会第 42 回大会
- (5) 中山夏恵、土屋佳雅里 自立した学習者を育む『小学校英語学習ポートフォリオ(言語学習記録)』の開発を目指して 第 5 回日本応用言語学会学術交流集会(2022)
- (6) 栗原文子、他 3 名 小学校英語学習ポートフォリオ「文化編」の開発 児童の振り返りのための自己評価シートの策定 - 日本児童英語教育学会第 42 回全国大会(2022)
- (7) 栗原文子、今村洋美 『中学校へのパスポート』の開発と実践 第 5 回日本応用言語学会学術交流集会(2022)
- (8) 長田恵理 Pre-service Language Teacher Education using a portfolio Second Language Teacher Education, University of Vienna (国際学会)(2022)
- (9) 神保尚武、久村研、山口高領 Challenges and Prospects of using Portfolios as a Reflection Tool in Pre-service Teacher Education 57th SEAMEO RELC International Conference (国際学会)(2023)

[図書]

- (1) JACET 教育問題研究会 桐文社 『言語教師教育, Vol.9, No.2 (英語版)』 (2022. 100)
- (2) JACET 教育問題研究会 桐文社 『言語教師教育, Vol.10, No.1 (日本語版)』 (2023. 137)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 神保尚武、久村研、山口高領
2. 発表標題 Challenges and Prospects of Using Portfolios as a Reflection Tool in Pre-service Teacher Education
3. 学会等名 57th SEAMEO RELC International Conference 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山口高領、米田佐紀子
2. 発表標題 J-POSTLエレメンタリーの開発－小学校教職課程履修学生のためのCan-do記述文－
3. 学会等名 JACET第60回記念国際年次大会 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山口高領
2. 発表標題 J-POSTLエレメンタリーお開発の理念とその主な利用方法
3. 学会等名 JACET中国・四国支部秋季研究大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ken Hisamura, Hisatake Jimbo, Fumiko Kurihara, Shien Sakai
2. 発表標題 Core Competences of EFLInstructors at Elementary Schools in Japan: Preliminary Findings
3. 学会等名 ASIA TEFL 2019
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計6件

1. 著者名 JACET教育問題研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 桐文社	5. 総ページ数 100
3. 書名 言語教師教育Vol.9 No.2 英語版	

1. 著者名 JACET教育問題研究会	4. 発行年 2023年
2. 出版社 桐文社	5. 総ページ数 137
3. 書名 言語教師教育Vol.10 No.1日本語版	

1. 著者名 JACET教育問題研究会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 桐文社	5. 総ページ数 152
3. 書名 言語教師教育Vol.8 No.2 英語版	

1. 著者名 JACET教育問題研究会	4. 発行年 2022年
2. 出版社 桐文社	5. 総ページ数 118
3. 書名 言語教師教育Vol.9 No.1日本語版	

1. 著者名 酒井志延・久村研、他13名	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 181
3. 書名 ワクワクする小学校英語授業の作り方	

1. 著者名 神保尚武・久村研、他18名	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大修館書店	5. 総ページ数 235
3. 書名 「教師の自己評価」で英語授業は変わる J-POSTLを活用した授業実践	

〔産業財産権〕

〔その他〕

JACET SIG on English Language Education http://www.waseda.jp//assoc-jacetedu/
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	酒井 志延 (Sakai Shien) (30289780)	千葉商科大学・商経学部・教授 (32504)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	久村 研 (Hisamura Ken) (30300007)	田園調布学園大学・子ども未来学部・名誉教授 (32720)	
研究分担者	長田 恵理 (Osada Eri) (40581690)	國學院大學・人間開発学部・准教授 (32614)	
研究分担者	栗原 文子 (Kurihara Fumiko) (60318920)	中央大学・商学部・教授 (32641)	
研究分担者	山口 高領 (Yamaguchi Takane) (60386555)	秀明大学・学校教師学部・専任講師 (32513)	
研究分担者	清田 洋一 (Kiyota Yoichi) (60513843)	明星大学・教育学部・教授 (32685)	
研究分担者	米田 佐紀子 (Yoneda Sakiko) (70208768)	玉川大学・文学部・教授 (32639)	
研究分担者	高木 亜希子 (Takagi Akiko) (50343629)	青山学院大学・教育人間科学部・教授 (32601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------